

2019 年度 大阪市立大学入学式 学長挨拶

平成最後となる 31 年度、そして 5 月からは新元号令和元年となる晴れやかな日に、大阪市立大学入学式を迎えられました学部学生及び大学院学生の諸君、そしてこの日を心待ちにしておられましたご家族の皆様、ご入学おめでとうございます。

この 4 月から、本学と大阪府立大学の法人組織、すなわち経営陣が統合され、公立大学法人大阪となりました。1 法人 2 大学としてスタートを切ったわけで、大学組織はこれまでどおりです。諸君は、卒業まで大阪市立大学でイチダイ生(イチダイという愛称で呼ばせていただきます)として学んでいただくこととなります。

その新法人の理事長として、本学の前理事長の西澤良記様が 4 月 1 日に就任されました。本日も来賓としてご臨席いただいております。また、ご多忙中にも関わりもせずご出席いただきました大阪市 副市長の鍵田剛(かぎた たけし)様、大阪市立大学 教育後援会 代表幹事の湯浅勲(ゆあさ いさお)様をはじめといたしまして、関係各位のご臨席を賜り、このように今年度の入学式を挙行できますことは、本学にとりまして大きな喜びでございます。

実は私は、ちょうど 50 年前に本学に入学しました。当時は学園紛争があり、入学式は執り行われませんでした。過酷な入試勉強のあとの合格の喜びと、そこから始まる大学での学びや学生生活に希望で胸膨らませ、ワクワクしたことを昨日のように思い出します。

ところが、ごく一部の大学を除いて、必ずしも入学に満足していない学生が居ることを知り、本学も例外でないことに驚いたことがあります。おそらく、不満足入学者はもっと偏差値の高い上の大学を目指していた人たちでしょう。しかし、今、社会や企業が求めている人材は、どの大学を卒業したかではなく、大学で何を学び、何ができるようになって、何がしたいのかを明確に持っているアクティブな人材です。

しかしながら残念なことに、総務省の調査によると、日本の大学生は世界で一番勉強しない部類に入るという結果になっています。何故こうなっているのかと考えてみると、多くは大学に入学することが目的になっていて、大学に入学して何がしたいかという目標が見つけれずに、勉強に力が入らないということではないかなと思います。それに当てはまるかも知れないと思う人は、大学で何のために学ぶか、その目標をできるだけ早く見つけてください。

その目標を見つけるヒントをいくつか示しましょう。

まず、大阪市立大学の理念を認識してください。市民の誇りとなり、市民に親しまれる大学、すなわち、公立の都市型総合大学として、大阪の発展を推進しつつ世界で活躍する人材を育成することです。より具体的には、国連で現在 2030 年までを達成目標に掲げている SDGs, Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)が参考になるでしょう。それは「世界を変えるための 17 項目の目標」からなっており、①貧困をなくそう、②飢餓をゼロに、③すべての人に健康と福祉を、④質の高い教育をみんなに、⑤ジェンダー平等を実現しよう、⑥安全な水とトイレを世界中に、⑦エネルギーをみんなに、そしてクリーンに、⑧働きがいも経済成長も、⑨産業と技術革新の基盤をつくろう、⑩人や国の不平等をなくそう、⑪住み続けられるまちづくりを、⑫つくる責任 つかう責任、⑬気候変動に具体的な対策を、⑭海の豊かさを守ろう、⑮陸の豊かさを守ろう、⑯平和と公正をすべての人に、⑰パートナーシップで目標を達成しよう、という 17 項目です。

本学もいち早く、国連のアカデミックインパクトに加盟し、活動しています。これは、個人個人にとっても、人生のヴィジョンを描くうえでの理念にも相当するものですので、社会で活躍するリーダーに育っていくために、SDGs をよく理解し、その中から自分自身の目標を見つけるのも一つの方法です。

さて、数年前に経済産業省が行った、学生と企業人を対象にした調査では、興味深い結果が示されています。企業側が「学生に求める能力要素」と学生が「企業から求められていると考える能力要素」には、大きなギャップが存在することがわかったのです。すなわち、企業側は学生に対し、「主体性」「粘り強さ」「コミュニケーション力」といった内面的な基本能力、人間力と言い換えることができる能力、の不足を感じているのに対して学生は、「語学力」や「簿記」といった技術・スキル系の能力要素が自らに不足していると考えている。企業は、社会人になるまでに、技術やスキルよりは内面的な基本能力を磨いて欲しいと考えているようです。とくにコミュニケーション力は、ユーモアと頓智が基本になると思います。これは、大阪での学びや生活から育まれると思います。いずれにせよ、社会はこのような人間力でリーダーシップを発揮してくれる人材を求めているのです。

社会が求める、「主体性」「粘り強さ」「コミュニケーション力」を磨く良い方法があります。それはクラブやサークルに入って活動することです。そこはまさに社会の縮図です。そこで仲間とコミュニケーションをどう取っていくべきか、練習がうまくいかなかったり、仲間と対立が生じたりしたときに、粘り強く話し合ってチームワークを強化できるか、また、自ら考え、リーダーシップを発揮できるかなどの試練を乗り越えてこそ成長があるのです。また、クラブやサークル活動は、芸術やスポーツが共通のテーマですが、日本では「道」なのです。柔道・剣道・弓道・茶道・華道など「道」が付きまです。技術を磨くだけでは「道」ではない。技術に精神が伴って、はじめて極められるみち(道)であり、世界に通用するグローバル人材形成にも繋がっていくものです。

大阪市立大学は 2020 年に創立 140 周年を迎える、長い歴史と伝統ある公立大学のひとつです。そのルーツである大阪商業講習所を開設された、五代友厚公の理念のひとつが「他利」、すなわち自分のことより他人のことを優先するという精神です。この精神は、結果的に目標の達成に近づく力を引き起こします。このような精神を貫く五代氏に多くの人々が信頼を寄せ、太い人脈が生まれ、近代大阪経済の父と呼ばれる偉業を成し遂げられたのです。

五代友厚公と同じ時代に、札幌農学校の初代校長であったウィリアム・スミス・クラーク博士が、学校を去るときに在校生に残した有名な言葉があります。「Boys, be ambitious」。これは誰でも知っていますね。Girls がなく、Boys だけなのは男子校だったからで他意はありません。私が言いたいことは、その後、どんな言葉が続くかということです。これはあまり知られていません。実は「Not for money」と続くのです。すなわち、「青年よ、大志を抱け！それは金銭に対してでも、自己の利益に対してでもなく、また世の人間が名声と呼ぶあのむなしいものに対してでもない。人間が人間として備えていなければならぬ、あらゆることをなし遂げるため、青年よ大志を抱け。」と述べておられるのです。さきほど述べた SDGs は、まさにクラーク博士の言うところの「人間が人間として備えていなければならぬ、あらゆること」に当たると思います。

わが大阪市立大学は、伝統と歴史のなかで、本学の生みの親である五代友厚公や大阪商科大学に昇格させた關一(せき はじめ)元大阪市長のサムライ魂と熱き血潮を受け継いで、偉大な大先輩方を輩出してきました。サントリーの創始者 鳥井信治郎(とりい しんじろう)氏、野村証券の創始者 野村徳七(のむら とくしち)氏、塩野義製薬の創始者 塩野義三郎(しおのぎ さぶろう)氏、ユニチャームの創始者 高原慶一郎(たかはら けいいちろう)氏らをはじめとし、上場企業を中心に多くの社長を実業家として輩出してきました。また、文系では、芥川賞作家 開高健(かいこう たけし)氏、理系では 2 人のノーベル賞学者 南部陽一郎先生と山中伸弥先生を輩出しています。そのような先輩方が、大阪市立大学の自由と進取の気風を醸し出し、連綿とイチダイ生に引き継がれています。諸君もイチダイで誇りを持って、自由な発想でさまざまな事に挑戦していただければと思います。

3 年前に私が掲げた本学のスローガンは「笑顔あふれる知と健康のグローバル拠点」です。「笑顔」が最初にあるのは、楽しい人生が一番だからです。諸君にとってはワクワクする大学生活がスタートしますが、慣れないことや知らない人たちがほとんどで不安もあるでしょう。まずは、行動を起こし、好奇心をあらわにさまざまな活動に首を突っ込み、できるだけ多くの人たちと早く打ち解けるようにしてください。これから「笑顔あふれる」キャンパスで諸君に会えるのが楽しみです。

改めまして、本日はご入学おめでとうございました。